

エコタウンのシンボル 「楽々」が一旦、清算 産直農家で再開検討



直しの対象施設とされていきました。直売所の経営は22年度以降厳しくなり、昨年1月の総会で経営再建の目的が立たないことを理由に清算が決定されました。

シンボル施設

藤島エコタウンセンター1階部分の直売施設「四季の里・楽々（らら）」を運営してきた「ふじしま産直組合」が1月31日で清算することになり、同組合の構成員による再開が検討されています。

藤島エコタウンセンターは市町村合併前の平成17年5月に開設。旧庄内中央農業共済組合跡地の活用として、約1億円をかけて整備されました。

開設前はイタリア料理の outlet（アル・ケッチャーノ2号店）が計画（平成23年）で見

画されていましたが、

町議会の一部議員から反対され、「食の都庄内」親善大使による料理体験講習などが企画されてきました。

エコタウンセンターは人と環境にやさしいまちづくり（藤島町宣言）のシンボリック施設とし、①直売施設②加工品づくりや新エネルギー活用③町民が自由に活用できるスペースなどの位置づけでした。旧藤島町では運営事業費として470万円が予算化され町直営でしたが、合併後に予算は縮小され、行革対象施設となり、産直組合の自助努力の運営となってきました。

産直組合の清算を契機に行革対象施設から外し、直営によるエコタウン事業の再建を図るべきです。

「赤旗」創刊90周年に寄せて



弁護士 角田 由紀子さん

とにかく面白くてためになる

「しんぶん赤旗」は、とにかく面白くてためになる。なかむかむか前の講談社の絵本の宣伝文句のようだが、私の「しんぶん赤旗」への評価を語るのにはびったり。毎朝、配達されるのをなんども確認に郵便受けをのぞきにゆく。

出かける前に全部を読む。結構隅から隅まで読む。中でも出色なのは、文化欄。私はここで例えば英文学者の中村和恵さんを知った。以後、彼女のファンである。彼女のエッセーを読むために『世界』の定期購読者にもなった。俳人の坪内検典さんのそれも愉快だ。あるときは、井沢風の朝食の実践が書かれており、私もまねしてみたかったが、残念ながら家が家は庭のかけらもなく、あきらめた。上質なお楽しみが「赤旗」と共に舞い込んでくる。

市民運動のページもおすすめです。全国各地の運動情報が載っている。私の住んでいる町の小さな運動まで記事になっていてその目配りに感心する。これらの情報は他のメディアにはほとんど載ることがない。市民運動をするなら「しんぶん赤旗」は必読と宣伝している。

面白くてためになる日刊「赤旗」ぜひ購読を、月額3,497円

東郡電気事業ものがたり

東田川郡電気事業の偉大なる軌跡

早坂清輔（上町）

製塩事業

東田川郡町村組合が取り組んだ事業に「製塩事業」がある。

昭和21年（1946）8月、吹浦村の湯ノ田海岸（現・遊佐町吹浦）の敷地200坪を借り受け、釜4基を設置し、郡の年間需要見込み量の3分の1、日産1トンを目標に、技手1名、作業員6名で創業した。

燃料の主体は電力で火力を従としたが、電力制限が厳しく、火力だけとなり、生産が上がらず事業閉鎖までわずか150石を生産したに過ぎなかった。

昭和23年（1948）に閉鎖された。



（加藤正英）

その前年の存命中、業績を称え、「加藤翁業績碑」を建立した。

郷土の偉大な先人

その功績は、乾田馬耕や学校設置、堰や堤防の整備、耕地整理と記され、鶴岡市立広瀬小学校（前・羽黒第3小）の校庭に顕彰されている。

特に松尾と狩谷野目は郡耕地整理事業の第1号で、模範として全国表彰受賞となった。また、明治31年（1898）の菅原橋（現在の羽黒橋）の架橋については特に功あり、当時は「正英橋」と称されたところである。

それは広瀬村松尾の加藤正英翁である。鶴岡の工藤家に生まれ、松尾に育ち、明治



（加藤翁業績碑・広瀬小学校）

春よ恋い

新町 齋藤留治

今年の冬は、世界中で地球温暖化によると思われる異常気象が発生しているそつだ。

北半球では寒気団に悩まされているようで、報道によると先日、シベリアの中央部にあるノリリスクという街ではマイナス64℃まで気温が下がったそつだ。



一瞬の体験としてなら味わってみるのもいいかもしれないが、途方も無い寒さであったろう。

一方、南半球では今が夏の真つ盛り、オーストラリアでは北半球とは逆に46℃の熱波によって、空飛ぶキツネというコウモリが大量死したという。

アフリカの灼熱の太陽のイメージしか浮かさないサワラ砂漠に、雪が降った等枚挙に事欠かない。

一面の雪に覆われた砂漠を連想してみるのも、味わい深いかもしれないが、今、庄内は寒風吹きすさぶ寒の真つ盛り。

庄内の冬景色を七言詩にして詠んだ次のような作品をいただいたので、ご紹介をさせていただきます。

雪花

窓見水文慣忍寒 堆

銀五夜睡応難 塞空大雪無人訪 独掃六花思百端

(意味) 窓に氷文を見るほどに寒さが厳しいが、今までも寒さには慣れている。降り積もった雪で朝の4時から眠る事が出来ないであろう。空一面に雪が降り出してこんな日は、だれも来る人もいない。一人で積もった雪を除いては、あれこれと思いが尽きない。

遠い中国の詩人、李白や杜甫を連想させられるようで、「春よ恋い」と待ち望む庭先を感じます。

ところで、先日ある新聞の「天声人語」に、トランプ大統領はホワ

米軍に対し主権のない国 日本、相次ぐ米軍機事故

―あらためて憲法を学ぶ 青山崇

沖縄で米軍機の事故が相次いでいる。昨年暮れ16日に小学校校庭にヘリの窓枠落下、正月6日ヘリ不時着、8日に再びヘリ不時着と続発している。

2016年は沖縄3件、沖縄外1、2017年は沖縄4件、沖縄外1であった。それが



イトハウスの寝室に鍵を付けさせて1台しかなかったテレビを3台に増やした上、部屋の掃除担当者には「歯ブラシには触るな」と命じているという。

さらに韓ドラの王様になった気になっていいのか、毒殺を恐れてマクドナルドのチーズバーガーを好んで食べているそつだ(作り置きで狙われにくいから)。

徳の無いのは織り込み済みのようで、「私(トランプ)の2大資産は精神的に安定している上に、非常に賢く、賢いのを通り越して天才!」だと勘違いしているという哀れな話。

アベ晋三総理のいう国難とは両首脳を指しているのかもしれない。

今年はずでに沖縄だけで2件、全く異常事態である。

しかし日本は最初に事故捜査ができない。憲法前文は「いずれの国家も、自国のことにみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なもの」としている。にもかかわらず、「他国を無視」する米国は例外扱いである。

1960年安保条約6条(アメリカ合衆国は、その陸軍、空軍及び海軍が日本国において施設及び区域を使用

することを許される。)

と共に、改定された日米地位協定17条によつて、第1次裁判権を米軍が持ち、さらに事故補償金の25%を日本が全額立替払いしている。

自民党改憲案9条は、「国は、主権と独立を守るため、国民と協力して、領土、領海及び領空を保全し、その資源を確保しなければならない」としているが、これにも反する主権売却渡しではないのか。関係自治体の那覇市



カダツプグレ

ケツとおチンチンはシャボンで洗つてと言いなながら、孫と風呂に入ったものだったが、同僚がある温泉で・どこも洗わないで俺の前に入つてきた。オメエ家でもそうしてつが、と聞いたらケツ洗つて入つていと。だつたら洗つてから入れと注意したことがあつた。

▲そんなことが酒席の話題になったとき、ある人「あれ・カダツプグレだもの」といったものだ。どこかへんなところがあつたところとだろう。そんなところか? なエライ人の話

▲かつて県の管理職から市長になった人は、知人ぞ知る「カダツプグレ」だつたよつだ。

何期か務めたが、一度も労働組合と話合いをしたことがないと。憲法の上をいくエライ人だつたよつだ。そんな時代は、老人福祉施設

議会、読谷村議会、うるま市議会は、こつて全飛行訓練中止を全会一致で決議した。

翁長知事はこの背景について、「海兵隊は部品が足りない」「整備力がない」と言われながら、何ら改善されないといと批判、整備不足について、米国のヘリテージ財団報告が、予算不足で全機体の41%しか飛行できないとしていることも紹介・指摘している。

の増設などをお願いする協同組合の話も聞いてくれたことがない。今では市の方から提案してきている。

▲大きなカダツプグレが気になる。北の戦略だトカの疑問がありながらも、五輪参加を契機に世界が喜ぶ方向にある今、日本だけが別の方向を見ている。

▲一番近く、事が起きれば軍事基地があり、最初の犠牲が出るであろうと世界中が見ているのに、話合おうとしない。そのくせ、遠い国で北の締め付けに同意を求めている。一方、ノーベル平和賞を貰つたアイキャンの事務局長が来ていて、会談を求めてもこれを断つた。▲時間が取れないからではない。核兵器禁止条約を直接語られれば、唯一の被爆国としては断ることが出来ないからでしょ。国の予算も防衛費はフクレ福祉がヘツコミ、カダツプグレだぜ。(石川)